

報道機関各位

令和7年2月28日

大学生が車の廃材をアップサイクル！

専修大×マテック×道総研のコラボで生まれる未来のリサイクル

アップサイクル製品開発・成果発表会

日時：令和7年3月13日（木）10：00 - 12：00

場所：北海道立総合研究機構 工業試験場 1階研修室

札幌市北区北19条西11丁目

（午後は、マテック石狩支店へ移動し、実際の車の解体現場を見学）

専修大学（東京）の学生達が、車の廃材であるエアバッグ、シートベルト、シートの革などを活用し、企業との協業で魅力的なアップサイクル製品を提案。その成果を紹介する発表会を開催します。



廃車から回収したシートベルトとエアバッグ



大学生がアップサイクル品を開発

リサイクルは環境に良いとわかっていても、経済的に採算が取れず、そこがネックとなり、なかなか進まないことがあります。そのため最近では廃材の特性を活かしてより価値の高い製品を生み出すアップサイクルの考え方が、食品、ファッション、家具、建材などの幅広い分野で注目されています。

車の廃材のうち、鉄、銅、アルミなどは有価で取引されるためにリサイクルが進んでいますが、エアバッグ、シートベルト、シート、ガラスなどは、良い利用方法が見つからず、全国的に見ても進んでいないのが現状です。

車、OA 機器などの解体、再資源化を行っている(株)マテックでは循環型社会の構築を目指し、アップサイクル製品を開発、自社店舗のマテックプロダクツ(帯広)やネット上で販売を行っています。

そして、さらなるアップサイクル製品の開発を進めるべく道総研の技術指導を受ける中、道総研と交流のあった専修大学と連携することとなり、大学の授業の一環としてアップサイクル製品の開発に取り組むことになりました。

今回、専修大学商学部の奥瀬教授と、現2年生6名が来道し、マテック社員と道総研研究者の前で、エアバッグ、シートベルト、革などを利用したアップサイクル製品の提案を発表します。環境意識の高い若者の感性により、車の廃材から魅力的なアイテムが生み出されることが期待されます。優れたアイデアは製品化されるかもしれません。

未来のアップサイクル製品が生まれる瞬間をぜひ、多くの人に伝えていただければと思います。

取材をご希望の場合は、下記の担当者まで事前にご連絡ください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研） 産業技術環境研究本部
エネルギー・環境・地質研究所（エネ環地研）研究推進室 研究情報グループ（担当：小松）
電話 011-747-2427 Eメール eeg-koho@ml.hro.or.jp
ホームページ <https://www.hro.or.jp/eeg.html>

< 用語およびデータ >

アップサイクル — 創造的再利用とも言われ、廃棄物を原料として、元より価値の高い製品にすること。例えば食品では、オイシックス、アストラフードプラン、など、ファッションでは、フライターグ、コーチトピア（バッグのコーチ）、ナイキ、アーバンリサーチ、などが知られている。

株式会社マテック（本社帯広市）：自動車、OA 機器などを解体処理する廃棄物処理企業。全道各地に事業所を有する。じゅんかんコンビニ、リサイクルアート展なども展開している。

マテックプロダクツ（帯広市）：マテックで回収した車のガラス、シートの革をアップサイクルしたグラスや名刺入れなどのアップサイクル製品を販売している。

<https://matec-products.jp/>

札幌のチカホでの展示販売や、東京ビッグサイトやインテックス大阪での展示会にも出展している。



専修大学：東京都千代田区に本部を置く私立大学。今回の成果発表会で北海道立総合研究機構を訪れるのは、商学部マーケティング学科・奥瀬喜之教授とゼミ生 6 名。

専修大学商学部 マーケティングおよび消費者行動に関する調査・研究

奥瀬喜之ゼミナール

<https://www.senshu->

[u.ac.jp/education/howto/seminar/search/commerce/c07.html](https://www.senshu-u.ac.jp/education/howto/seminar/search/commerce/c07.html)



北海道立総合研究機構（道総研）

北海道の地方独立行政法人の研究機関。農業、水産、森林、産業技術、建築などについての研究開発、調査、技術支援を行なっている。

今回、産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所及びものづくり支援センターが対応します。